

干ばつ被害田の土壌管理について

糸魚川地域振興局農林振興部

1 本年対応

基盤の補修について

(1) 田面亀裂による漏水の防止

ア 田面亀裂による漏水防止のため、収穫後、トラクターによるロータリー耕を行い、その後可能な限り湛水し、丁寧な代かきを複数回（4回程度）実施する。

イ 補修効果を高めるため、可能な限り年内に実施する。

ウ 被害が大きい場合は、重機等を用いた本格的な復旧工事を実施する。

(2) 田面亀裂程度による対策

ア 亀裂が耕盤に達しているが、耕盤の破壊まで至っていない水田

【対策】

トラクターによるロータリー耕を行い、その後湛水し、丁寧に代かきする。

イ 亀裂が耕盤を破壊している水田

【対策】

ベントナイトを亀裂のひどい部分に m^2 当たり1kgを散布し、田全体に対しトラクターによるロータリー耕を行う。その後湛水し、丁寧に代かきする。その際、土壌の膨軟化を図るため、耕深をできるだけ深くする。

* ベントナイトの施用例：50mの畦畔で5m幅に散布した場合 250kg

ウ ア、イの対策実施の際は、畦畔からの漏水を防止するため、畦塗りを丁寧に実施する。

(3) 畦畔の亀裂による漏水の防止

ア 収穫後、可能な限り早期に丁寧な畦塗りを実施する。

イ 田面亀裂の補修も併せて実施する場合は、畦塗りを最初に実施する。

2 次年対応

(1) 品種の選定と基肥量

干ばつによる乾土効果により窒素が多く発現することが考えられるので、コシヒカリ等の耐倒伏性が弱い品種の作付は控える。

また、基肥量は窒素成分を2～3割程度減肥し、その後の生育経過に応じて追肥で対応する。

(2) 雑草防除

ほ場の乾燥により雑草が多く発生しているほ場では、翌年も雑草が多発するので効果的な薬剤の選定と初期剤＋一発剤＋（中後期剤）の組み合わせによる体系防除とする。

(3) 有機物の積極的な施用

保水力や窒素供給力を維持し、干ばつや高温登熟条件下での稲の生育や登熟を確保するため、堆肥や稲わら・粃がらの秋すき込みを行い、中長期的な観点で土づくりを進める。